

「ハアチ  
と「ハラ  
マイン」

喇嘛教と  
の比較

は、第一吐魯番南山の教會堂、第二喀什噶爾の東北一里弱に在る教會堂とす。回教徒のメツカ參詣を爲す者は、先づ以上二個の教會堂に參詣讀經の上、發足するを常とす。

今纏頭界に於ける道心の深き一例を掲げんに、彼等中、先づ亞刺比亞國なるマホメットの墓を拜し、更にアバウベキリースデック及ウマルの二靈場を巡拜し、堂に入りて後歸國せし者を<sup>ハゲチ</sup>哈吉と稱し一般の信用甚だ厚し。次は以上三靈場に參詣するも自己の不潔白を省みて、堂に入らずして門前に禮拜して歸りし者を「ハラマイン」と呼び、以て尊敬の度を區別す。蓋し回教徒は心身共に清淨潔白の者に非ざれば堂に入りて拜する能はず、而て其罪業深き者は、生還を得ずと確信するに因る。

以上叙述せし所を以て、各宗教の是非如何を觀察せんに、何れも其の教義深遠にして、固より門外漢の容易に知る能はざる所なるも、遠く立教以來、活動の跡に就て其の結果、及現狀を一見するに、回々教は其の思想、非進歩的にして偏狹を免れず。其の道德の如き、儀式の如き、共に今日の社會に適せず。殊に阿渾の教育不備にして、其の布教發達を策すべき人材を得ず。加之立教以來、教徒に殺伐の氣象を鼓吹